

警告 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあります。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

・安全のための注意事項を守る

この「安全のために」の注意事項をよくお読みください。

・定期的に点検する

1年に1度は、ACパワーアダプターのプラグ部とコンセントとの間にほこりがたまっていないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

・故障したら使わない

動作がおかしくなったり、ACパワーアダプターなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口へ修理をご依頼ください。

・万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら

- 電源を切る
- ACパワーアダプターをコンセントから抜く
- お買い上げ店またはソニーサービス窓口へ修理を依頼する

警告 下記の注意を守らないと、火災・感電により大けがの原因となります。

運転中は使用しない

自動車の運転をしながらヘッドホンを使用したり、細かい操作をしたりすることは絶対におやめください。交通事故の原因となります。



内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐにスイッチを切り、ACパワーアダプターをコンセントから抜いて、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



この製品を海外で使用しない

ACパワーアダプターは、日本国内専用です。交流100Vの電源でお使いください。海外などで、異なる電源電圧で使用すると、火災・感電の原因となります。



雷が鳴りだしたら、充電用接点や電源プラグに触れない

感電の原因となります。



指定以外のACパワーアダプターを使わない

破裂・液漏れや、過熱などにより、火災、けがや周囲の汚損の原因となります。

警告表示の意味

取扱説明書及び製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

危険 この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

警告 この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故の原因となります。

注意 この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。



注意 下記の注意を守らないと、けがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

ぬれた手でACパワーアダプターをさわらない

感電の原因となることがあります。



大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。



はじめからボリュームを上げすぎない

突然大きな音が出て耳をいためることがあります。ボリュームは徐々に上げましょう。とくに、ミニディスク、CDやDATなど、雑音の少ないデジタル機器を聞くときにはご注意ください。

通電中のACパワーアダプターや充電中の製品に長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

本体やACパワーアダプターを布団などでおおった状態で使わない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。



電池についての安全上のご注意

この機器はニカド充電電池を使用します。漏液、発熱、発火、破裂、誤飲などを避けるため、下記のことを必ずお守りください。

危険

- 指定された充電器以外で充電しない。
- 火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱しない。コインやヘアピンなどの金属類と一緒に携帯、保管するとショートすることがあります。
- 充電式ニカド電池に貼ってあるビニールをはがしたり、傷つけない。

警告

- 火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱しない。
- 乾電池は充電しない。
- 指定された種類の電池を使用する。

注意

- +と-の向きを正しく入れる。
- 電池を使い切ったとき、長時間使用しないときは、取り出しておく。

液もれが起こったときは、電池入れについて液をよくふき取ってから新しい電池を入れてください。

ニカド電池について

この製品には、ニカド電池を使用しています。ニカド電池はリサイクルできる貴重な資源です。ニカド電池の交換および、ご使用済みの製品の廃棄に際しては、ニカド電池を取り出し、金属部にゼロハンテープなどの絶縁テープを貼ってニカド電池リサイクル協力店へご持参ください。

このマークはニカド電池のリサイクルマークです。

主な仕様

一般仕様
 変調方式 周波数変調
 搬送波周波数 右チャンネル 2.8MHz
 左チャンネル 2.3MHz
 周波数特性 12～24,000Hz(MDR-IF420RK)
 10～24,000Hz(MDR-IF520RK)

トランスミッター
 電源 DC 9V(付属のACパワーアダプターを使用)
 音声入力端子 ビンジャック/ステレオミニジャック
 最大外形寸法 約120×260×135mm
 (幅/高さ/奥行き)
 質量 約190g

ヘッドホン
 電源 付属の充電式ニカド電池
 または単3形乾電池
 質量 MDR-IF420RK 320g
 MDR-IF520RK 390g
 (付属の充電式ニカド電池含む)

付属ニカド充電電池
 NC-AA (HJ), 1.2V, 600mAh, Ni-Cd

付属品
 ACパワーアダプター(1) プラグアダプター(ステレオミニジャック ステレオ標準プラグ)(1) 接続コード(約1m, ステレオミニプラグ×1 ビンプラグ×2)(1) 充電式ニカド電池、取扱説明書(1) ソニーご相談窓口のご案内(1)保証書(1)

別売りアクセサリ
 ・ソニー乾電池R6P (SR)
 ・付属のコードをイヤホン端子につないで、右チャンネルの音がでないとき
 プラグアダプターPC-236MS(ステレオミニジャックモノラルミニプラグ)
 ・付属の接続コードの長さが、使用状況に合わないとき
 接続コード RK-C305(0.5m, ビンプラグ×2
 ビンプラグ×2)
 RK-C310(1m, ビンプラグ×2
 ビンプラグ×2)
 RK-C320(2m, ビンプラグ×2
 ビンプラグ×2)
 ・付属のコードをなくしてしまったとき
 接続コード RK-G129(1.5m, ステレオミニプラグ×1
 ビンプラグ×2)

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

ご注意
 製品上のCEマークはEU加盟国で販売されるものみに有効です。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックをこの説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合が悪いときはお買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。くわしくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではコードレスステレオヘッドホンシステムの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。なお、補修用性能部品の保有期間は通商産業省の指導にもよるものです。

ソニー株式会社 〒141 東京都品川区北品川6-7-35
 お問い合わせはお客様ご相談センターへ
 東京(03)5448-3311 名古屋(052)232-2611 大阪(06)539-5111

コードレスステレオ
ヘッドホンシステム

取扱説明書

お買い上げいただき、ありがとうございます。

警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

MDR-IF420RK
MDR-IF520RK

Sony Corporation © 1996 Printed in Korea

主な特長

本機は赤外線を使用したコードレスステレオヘッドホンシステムです。トランスミッターをヘッドホン端子、または音声出力端子のあるテレビやオーディオ機器に接続するだけで、ヘッドホンコードにわずらわされることなく、手軽にお使いいただけます。

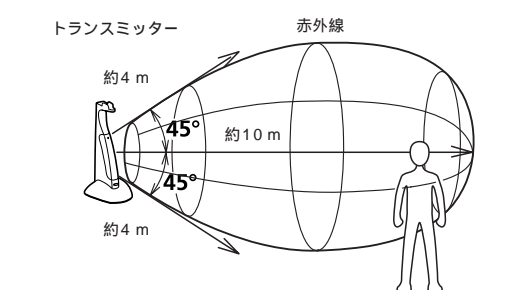
- 外來ノイズなどの影響を受けにくい赤外線を利用した、コードレスステレオヘッドホンシステム
- 最大10mまでの広い赤外線到達範囲
- ヘッドバンド調節不要のフリーアジャスト機構を採用
- ヘッドホンをかけるだけで自動的に電源が入り、はずすと自動的に電源が切れる、オートパワーオン/オフ機能
- より臨場感のある再生を楽しめるサラウンド機能(MDR-IF520RKのみ)
- ヘッドホンの左右の音量を連動して調整できるVOLつまみ
- BALANCEコントロールで左右のバランスも調節できます(MDR-IF520RKのみ)
- ヘッドホンの電源は、付属の充電式ニカド電池による充電、または別売りの乾電池の二通り

まず充電を!

本機は充電式のヘッドホンです。お買い上げ時には充電されていません。お使いになる前に、必ず充電を行ってください。充電のしかたは、以下の「ヘッドホンを充電する」をご覧ください。

赤外線方式について

トランスミッターからの赤外線の届く範囲はおおよそ下図のとおりです。



ご注意
 ・このシステムは赤外線を使用しているため、上図の範囲内であっても、ヘッドホンがトランスミッターから離れるにしたがって雑音(ヒスノイズ)が増えます。また、赤外線がささげられた場合は音とぎれたり、雑音が入ることがあります。これらの現象は赤外線の特性によるもので、故障ではありません。

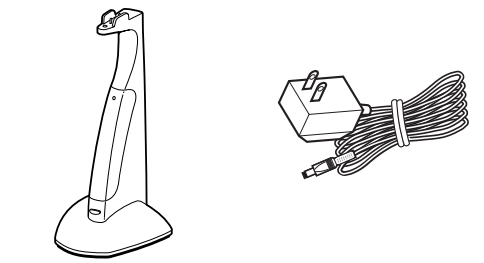
- 赤外線受光部を手や髪でおおわないでください。
- トランスミッターはヘッドホンに対して前方、後方、横方向に置いてもヘッドホンをお使いになる位置が図の範囲内であればお使いいただけます。
- トランスミッターの位置や、お使いになる場所の状況によって、聞こえかたが異なります。なるべく聞こえやすい位置でお使いになることをおすすめします。

準備

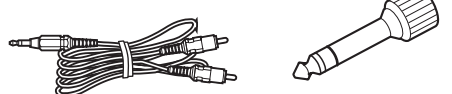
確認しましょう

はじめに内容物の確認をしてください。

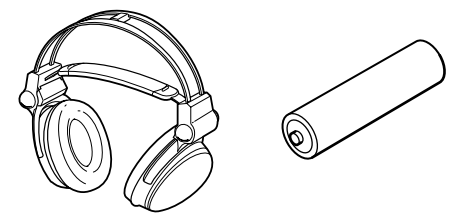
- ・ トランスミッター
- ・ ACパワーアダプター



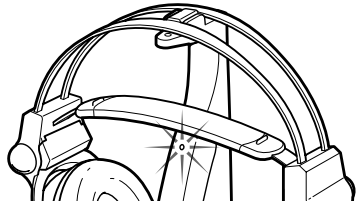
- ・ 接続コード (ピンプラグ ステレオミニプラグ)
- ・ プラグアダプター



- ・ ヘッドホン
- ・ 充電式ニカド電池



5 ヘッドホンとトランスミッターの充電用接点が接触するようにヘッドホンをトランスミッターの上にかける。
充電ランプが点灯します。



ご注意
本機は、安全のため付属の充電式電池のみ充電できるようになっています。他の同形の電池や充電式電池を使っても充電できませんのでご注意ください。

充電ランプが点灯しない場合はトランスミッター上部の充電用端子がヘッドホンの充電用の穴と正しく接続しているか、ヘッドホンの位置を確認してください。

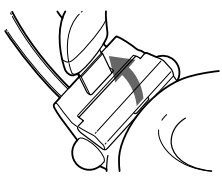
ヘッドホンをお使いになったあと再充電するには本機の充電は少しずつ行われますので、ヘッドホンをトランスミッターの上に掛けたままにしておいても、充電のしすぎによって故障することはありません。ヘッドホンを使わないときはいつもトランスミッターの上に掛けておくことをお勧めします。

| 充電の目安と使用時間 | MDR-IF420RK | MDR-IF520RK |
|------------|-------------|-------------|
| 充電時間 | 約1時間 | 約1時間15分 |
| 使用時間* | 約24時間 | 約30時間 |

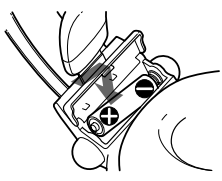
ヘッドホン充電する

はじめてヘッドホンをお使いになる場合はヘッドホンは充電式になっています。はじめてヘッドホンをお使いになる場合は、次の手順にしたがって充電を行ってください。

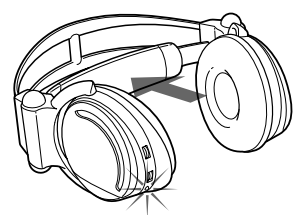
1 左側のヘッドバンド内側にある電池ぶたを開ける。



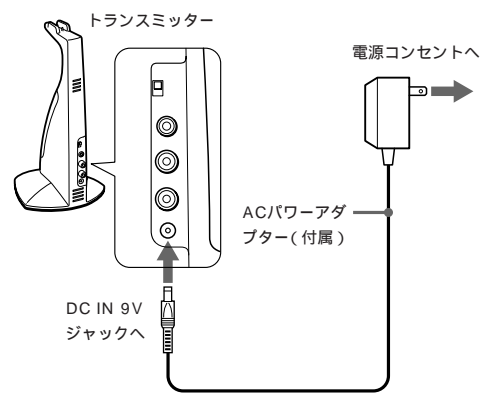
2 付属の充電式ニカド電池を入れる。
付属の充電式ニカド電池以外は使用しないでください。市販の充電式ニカド電池には充電できません。



3 電池ぶたを閉じる。



4 トランスミッターに電源をつなぐ。



ご注意
・ 充電中はトランスミッターの電源が自動的にOFFになります。
・ この製品には、付属のACパワーアダプター(極性統一形プラグ・EIAJ規格)をご使用ください。上記以外のAC(パワーアダプターを使用すると、故障の原因になります。

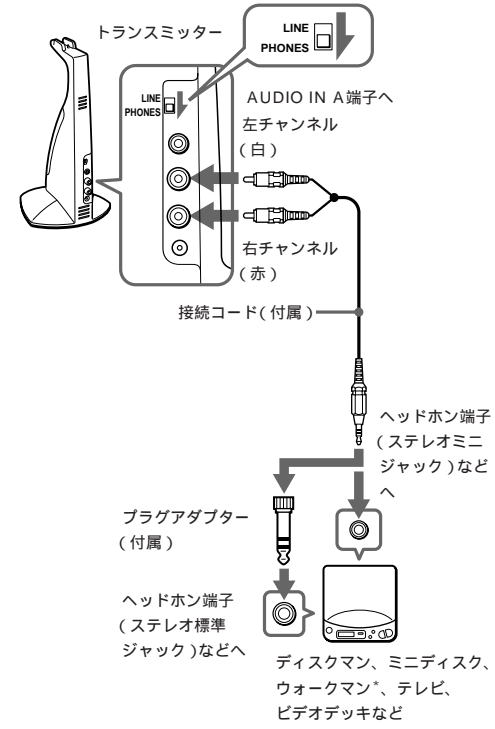


・ 充電式ニカド電池を十分に充電しても、使える時間が通常の半分くらいになったときは、新しい充電式電池と取り換えてください。この充電式電池は市販されていませんのでお買い上げ店または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口へお問い合わせの上、お取り寄せください。

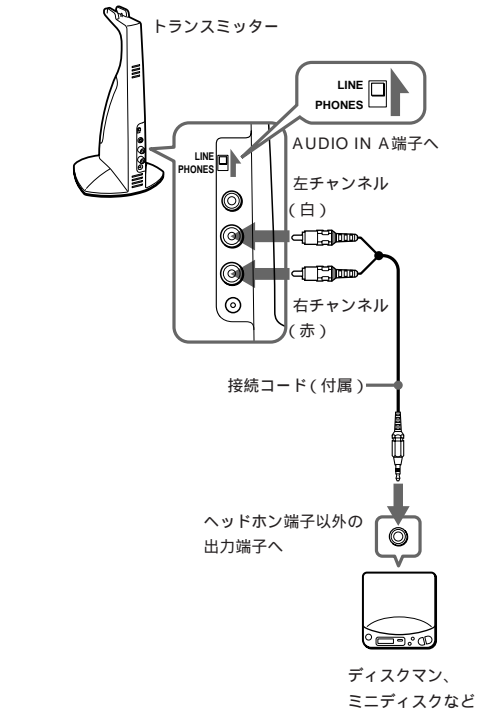
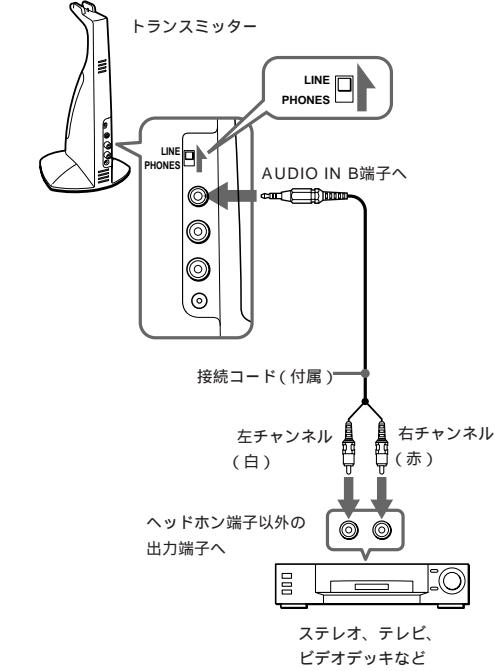
トランスミッターを設置する

1 トランスミッターをAV機器につなぐ。
AV機器の出力端子の種類に合わせて①または②を選んでください。

① ヘッドホン端子につなぐ場合
INPUT SOURCEスイッチをPHONESにします。



② ヘッドホン端子以外の出力端子につなぐ場合
INPUT SOURCEスイッチをLINEにします。



2 トランスミッターに電源をつなぐ。

ご注意
トランスミッターの赤外線発光部の明るさにムラがある場合がありますが、赤外線が届く範囲などの性能には影響ありません。
・ 接続コードをイヤホン端子(モノラルミニジャック)に直接つないだ場合は、右チャンネルの音が出ないことがあります。このときは別売りのプラグアダプターPC-236MS(ステレオミニジャック モノラルミニプラグ)を接続コードとイヤホン端子の間につないでください。
・ ウォークマンはソニー(株)の登録商標です。

使いかた

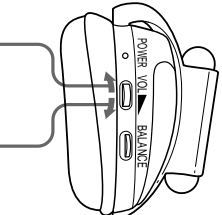
音声を聞く

1 トランスミッターに接続したAV機器の電源を入れます。
つないだAV機器から音声信号が入力されるとトランスミッターの電源が自動的に入り、赤外線発光部が点灯します。トランスミッターをヘッドホン端子に接続した場合は、接続した機器のボリュームを、音がひずまない範囲でなるべく大きくしてください。

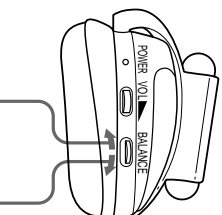
2 ヘッドホンをつける。
電源ランプが赤色に点灯し、自動的に電源が入ります。



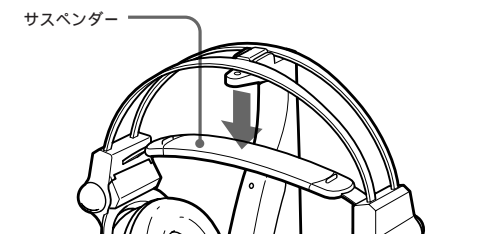
3 音量を調節する。



4 左右の音量のバランスを調節する(MDR-IF520RKのみ)。



ヘッドホンはずすと自動的に電源が切れます。自動パワーオン/オフ機能お使いにならないときは、サスペンダーが引き上げられた状態にならないようご注意ください。電源が入ったままになります。



ヘッドホンから音が聞こえないときは

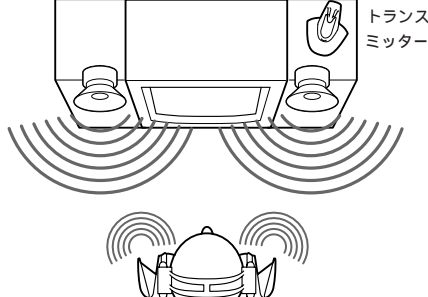
・ ミュート機能
赤外線が届く範囲から離れたり、赤外線がさざぎられたりして雑音が増え、自動的にミュート機能が働きヘッドホンから音が聞こえなくなります。トランスミッターに近づくと、赤外線がさざぎられないようになれば、自動的にミュート状態は解除されます。

約5分以上音声信号が入力されないとトランスミッターの電源が自動的に切れます。
音声信号が途切れたり、非常に小さい音が約5分以上続くとトランスミッターの電源が切れることがあります。この場合は接続した機器の音量を上げ、ヘッドホンの音量を下げてお使いください。

お使いになったあとはヘッドホンはずし、トランスミッターの上に掛けて置いてください。次にAV機器の電源を切ります。トランスミッターの電源も自動的に切れます。(この場合、先にヘッドホンはずしてください。トランスミッターの電源が先に切れると赤外線が切れるため、雑音が聞こえることがありますのでご注意ください。)

ご注意
トランスミッターの赤外線発光部の明るさにムラがある場合がありますが、赤外線が届く範囲などの性能には影響ありません。

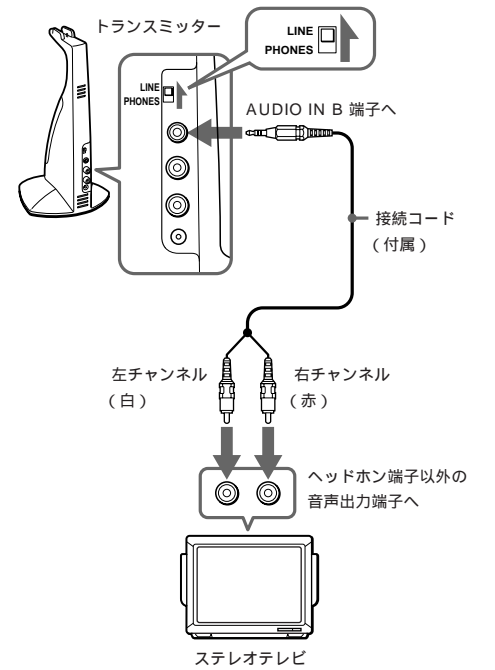
テレビやビデオなどの音声をより臨場感のある音で聞くには
サウンド機能(MDR-IF520RKのみ)
ステレオスピーカー付きのAV機器をお使いになる場合、正面のスピーカーからの音声と同時にトランスミッターが作り出すリアサウンドをヘッドホンで聞くことにより、より臨場感のある音が楽しめます。



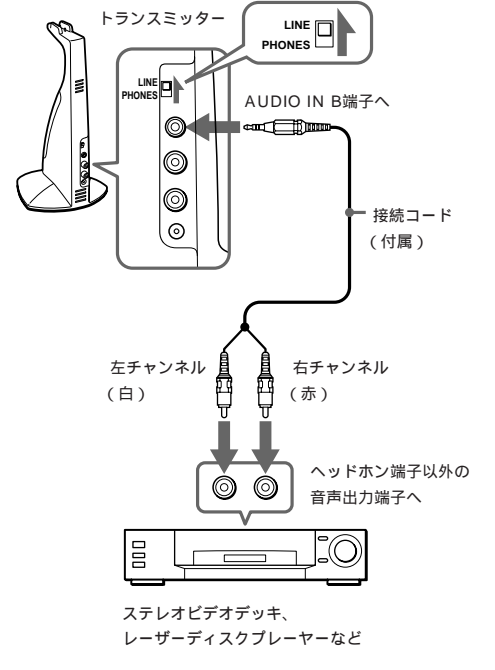
サウンド機能を使うには、次のように本機を接続、設定します。

1 接続する。
以下の接続方法があります。
INPUT SOURCEスイッチをLINEにします。

① 音声出力端子付きステレオテレビに接続する場合

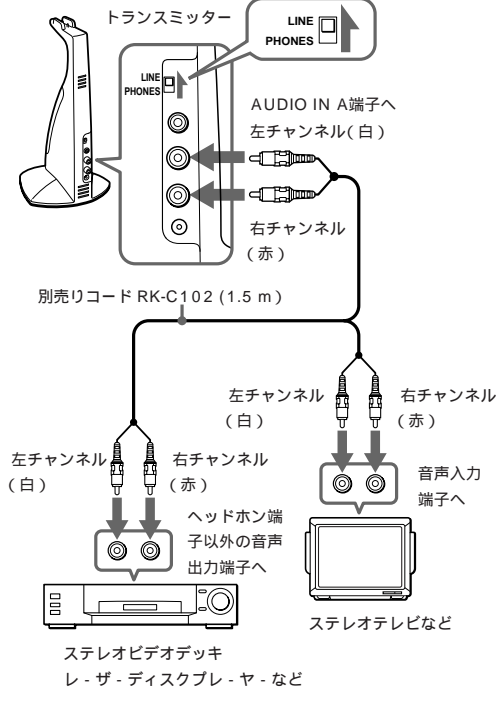


② ステレオビデオデッキやレーザーディスクプレーヤーなどに接続する場合

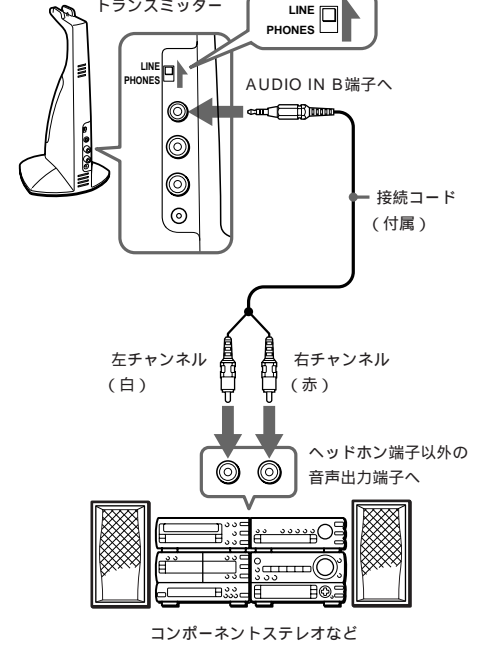


接続する機器の音声出力端子が全てふさがる場合

別売りのふたまた接続コードを使って1系統の出力を2つに分け、一方をトランスミッターのAUDIO IN Aに差し込んでください。

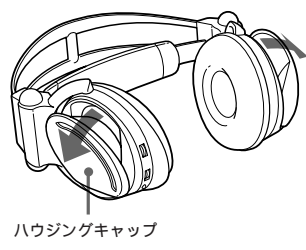


③ オーディオ機器に接続する場合

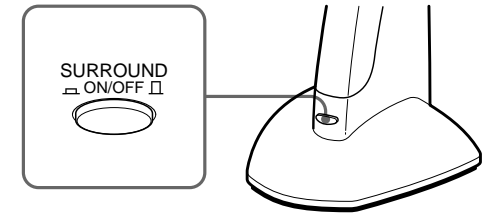


ご注意
AV機器のヘッドホン端子には接続しないでください。正面のスピーカーから音が出なくなり、サウンド効果が得られません。

2 ヘッドホンのハウジングキャップを下図のように開いておく。
AV機器のスピーカーからの音声も同時に聞き取れるようになります。



3 トランスミッターのSURROUNDボタンをONにして、接続した機器の再生を始める。
サウンド機能を解除するには、もう一度SURROUNDボタンを押してOFFにします。



ご注意
・ 次のような場合は、サウンド機能は働きません。
音声モノラルの場合
2か国語放送の場合
・ サウンド機能をお使いになるときは、本機をAV機器などのサウンド端子には接続しないでください。サウンド効果が得られなかったり、音が出なかったりすることがあります。

その他

使用上のご注意

取り扱いについて
トランスミッター、ヘッドホンを落としたりぶつけたりなど強いショックを与えないでください。故障の原因となります。

次のような所には置かないでください
・ 直射日光があたる所や暖房器具の近くなど温度が非常に高い所(なるべく5~35の範囲でご使用ください。)
・ 風呂場など、湿気の多い所

ヘッドホンについて
耳を守るために
耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。耳を守るため、音量を上げすぎないようにご注意ください。

まわりの人のことを考えて
ヘッドホンは、音量を上げすぎると音が外にもれます。音量を上げすぎ、まわりの人の迷惑にならないように気をつけましょう。
雑音の多いところでは音量を上げてしまいがちですが、ヘッドホンで聞くときはいつも、呼びかけられて返事ができるくらいの音量を目安にしてください。

異常や不具合が起きたら
・ 万一異常や不具合が起きたとき、異物が中に入るときは、すぐに電源を切り、お買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご相談ください。
・ お買い上げ店、またはソニーサービス窓口をお持ちになる際は、必ずヘッドホンとトランスミッターと一緒に持ち帰ってください。

イヤークリップを交換する

イヤークリップは消耗品です。汚れたり破損した場合は、お買い上げ店または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口へお問い合わせください。

故障とお考えになる前に

音が出ない。
→ トランスミッターとAV機器、ACパワーアダプターとの接続、電源コンセントとの接続を確認する。
→ トランスミッターにつないだAV機器の電源が入っているか確認する。

→ トランスミッターをAV機器のヘッドホン端子につないだ場合は、つないだ機器の音量を上げる。
→ ミュート機能が働いている。
・ トランスミッターとヘッドホンの間に障害物がないか確認する。

・ なるべくトランスミッターの近くでヘッドホンを使用する。
・ トランスミッターの位置や角度を変える。
→ ヘッドホンの電源ランプが暗いまたは消灯している。
・ 充電電池が消耗しているのを充電をする。または乾電池を新しいものと交換する。それでも電源ランプが消灯したままの場合は、ソニーサービス窓口にお持ちください。
→ トランスミッターのINPUT SOURCEスイッチの設定が合っているか確認する。
→ BALANCEつまみの位置を確認する(MDR-IF520RKのみ)
→ SURROUNDボタンの位置を確認する(MDR-IF520RKのみ)

音がひずむ。
→ トランスミッターをAV機器のヘッドホン端子につないだ場合は、接続したAV機器の音量を下げる。
→ ヘッドホンの電源ランプが暗いまたは消灯している。
・ 充電電池が消耗しているのを充電をする。または乾電池を新しいものと交換する。それでも電源ランプが消灯したままの場合は、ソニーサービス窓口にお持ちください。
→ トランスミッターのINPUT SOURCEスイッチの設定が合っているか確認する。

雑音が多い。
→ トランスミッターの近くでヘッドホンを使用する。トランスミッターから離れるにつれて雑音が多くなります。この現象は赤外線特性によるもので、故障ではありません。
→ トランスミッターとヘッドホンの間に障害物がないか確認する。
→ 赤外線受光部を手や髪であおっていないか確認する。

→ 直射日光の入る窓際で使っているときは、カーテンやブラインドを閉めて直射日光が当たらないようにする。または、直射日光の当たらない場所で使う。
→ トランスミッターの位置や角度を変える。
→ トランスミッターをAV機器のヘッドホン端子につないだ場合は、つないだ機器の音量を上げる。
→ ヘッドホンの電源ランプが暗いまたは消灯している。

・ 充電電池が消耗しているのを充電をする。または乾電池を新しいものと交換する。それでも電源ランプが消灯したままの場合は、ソニーサービス窓口にお持ちください。
→ すでに別のトランスミッターをお持ちのときは、同時に2台以上のトランスミッターを使っていないか確認する。
・ 他のトランスミッターの電源を切るか、赤外線の届かない所へ移動する。
→ 接続したAV機器から雑音が出ている。
・ トランスミッターのINPUT SOURCEスイッチの設定が合っているか確認する。
・ トランスミッターの電源を入れたまま、つないでいる接続コードをはずしてヘッドホンから雑音が出ているか確認する。雑音が出なくなったら、接続した機器に雑音の原因があります。

サウンド効果が得られない(MDR-IF520RKのみ)

- SURROUNDボタンを押す。
- 入力信号がステレオになっているか確認する。
- 本機とAV機器との接続が正しいか確認する。
- ハウジングキャップを開く。

充電できない。
・ 乾電池が入っている。
・ 付属の充電式ニカド電池を入れる。
→ 付属以外の充電式ニカド電池が入っている。
・ 付属の充電式ニカド電池を入れる。